

報道機関 各位

立命館アジア太平洋大学

2016年10月28日

APU リリース 2016-61

## APU 最大の学術研究イベント 第14回アジア太平洋カンファレンス オックスフォード大学日産日本問題研究所 苅谷剛彦教授が基調講演

第14回アジア太平洋カンファレンスは、立命館アジア太平洋大学(APU)で実施される学術会議では最大規模です。本学会を主催する立命館アジア太平洋研究センター(RCAPS)の設立20周年を迎えた本年は、分科会数も70以上を予定し、国内外から300名を超える発表者を見込んでおり、本カンファレンス開催史上最多となります。発表内容は、教育、国際関係、観光、女性の社会進出、言語教育、国際ビジネス、アジア太平洋学など幅広いため、教育関係者だけでなく本カンファレンスのテーマにご関心のある一般の皆様にもご参加いただけます。

### 今回の特色

- 各教室で実施する発表数が、72件に上り過去最多。  
(2012年度:20件、2013年度:17件、2014年度:16件、2015年度:38件)
- 発表者は世界21カ国・地域、80の教育機関から約300名が来学。国内から東京大学、京都大学、九州大学、名古屋大学、国際基督教大学、慶応義塾大学、早稲田大学等、国外からカルフォルニア州立大学(アメリカ)、フィリピン大学(フィリピン)、タマサート大学(タイ)等全80の教育機関から集う。聴講者等の人数を合わせるとイベント全体で400名の参加を見込む。
- 国内外から、2名の著名な教授をお招きし、APU学長も含め3件の基調講演を実施。  
※講演者、講演内容については、2枚目の[基調講演者一覧 講演スケジュール](#)をご参照ください。
- APU在籍の学部生、大学院生による発表(分科会)も実施。

テーマ: **The Changing Asia Pacific: Sharing Knowledge, Shaping the Future**  
変わりゆくアジア太平洋 — 知識の共有、未来の創造

日時: 2016年11月5日(土) 9:00~19:15、6日(日) 8:30~16:45

場所: APUキャンパス H202(開会式、基調講演、閉会式) D201- D214(D棟2階:分科会)  
※入退場自由

言語: 英語(一部に日本語分科会を開催) 同時通訳無

対象: 学生、研究者、一般聴講者

参加費: 聴講は無料

事前申込: 以下の特設サイトより事前に参加申込をしてください。

APカンファレンス(<http://www.apu.ac.jp/rcaps/page/content0105.html/>)

●本リリース(全2枚)は、大分県政記者クラブ・別府市政記者クラブ・福岡経済記者クラブ加盟各社に送信しています。

## 基調講演者一覧 講演スケジュール

会場:APU キャンパス内 H棟 2階 H202 教室

11月5日(土)9:45-10:30

### ジャフェット S. ロー(Japhet S. Law)教授

(EFMD シニアアドバイザー、香港中文大学ビジネススクール Aviation Center and Research Policy センター長)

講演テーマ:アジアにおけるビジネス教育の発展について

講演内容:アジア経済はここ数十年で、驚異的な成長と発展を遂げてきました。それは、この地域におけるビジネス教育にとっても、量と質の両面で、成長と発展への推進力となってきました。この地域の発展を牽引する原動力が何であるのかを探求し、今日私たちが目にしている結果にどのような違いをもたらしてきたのかを分析し、今後のアジアにおけるビジネス教育の分野の課題とチャンスについて講演します。

11月5日(土)15:10-15:55

### 苅谷剛彦教授(オックスフォード大学)

講演テーマ:グローバルな時代に日本社会を研究すること

講演内容:日本人が日本社会について研究し日本人向けに日本語で発表するのは自明である。だが、大学のグローバル化対応が迫られる中、海外に向け外国語(主に英語)で日本社会について研究・発表することにはどのような意味があるのか。こうした視点を問題意識とし、私自身の研究課題である「教育と近代化論」というテーマのもと論ずる予定。

11月6日 9:00-9:45

### 是永駿学長(立命館アジア太平洋大学)

講演テーマ:Modern Chinese Poetry and Poetics 中国の現代詩と詩学

講演内容:東アジアの現代詩はヨーロッパの現代詩の影響を受けて発展してきた。フランスの象徴主義とシュールレアリズムは、ここ100年、私たちの詩に多大な影響を与えている。中国現代詩は1920年代から1930年代にかけ、卞之琳を中心に発展し、1940年代には九葉派が、1970年代終盤には北島が活躍した。一方、第二次世界大戦後の台湾では、痲弦や鄭愁予など多くの優れた詩人が誕生し、現代詩の花開く時代を迎えた。現代の中国では、いわゆる文化大革命後、CCPからの圧力にもかかわらず、表現の自由と、文学の分野では現代詩を追求する潮流が生まれている。